



No.36

2014 September
[MISA会報 第36号]

- 第3回通常総会・講演会
- 平成26年度新役員名簿
- MISA会員企業調査報告
- 各種委員会報告
- 新入会員紹介

■発行/一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 仙台市青葉区上杉1-6-10仙台北辰ビル5F 【TEL】022 (217) 3023 【FAX】022 (217) 3055 【E-mail】misa@misa.or.jp
■URL/http://misa.or.jp ■企画・編集/情報発信部会 ■印刷/ハリウ コミュニケーションズ株式会社



第3回通常総会開催報告

去る6月12日（木）第10回理事会終了後、午後1時50分より一般社団法人宮城県情報サービス産業協会の第3回通常総会が仙台市青葉区の「パレスへいあん」において開催されました。

総会は早坂会長の開会挨拶、宮城県震災復興・企画部次長 小林 裕氏の来賓挨拶のあと、早坂会長が議長に選任され、正会員数151社、出席会員数102社及び委任状提出35社の1/2以上の出席により議事に入り、いずれも提案通り承認されました。

- 第1号議案 平成25年度事業実績について
- 第2号議案 同上 収支決算及び会計監査結果について
- 第3号議案 公益目的支出計画実施結果について
- 第4号議案 新中期事業計画(26年～28年)について
- 第5号議案 平成26年度事業計画について
- 第6号議案 同上 収支予算について
- 第7号議案 役員異動について



通常総会に引続き、昨年経済産業大臣賞を受賞された、廣瀬製紙株式会社代表取締役社長の岡田 勝利氏による、「モノづくり企業の再建への取り組み」と題する講演会が開催されました。（講演会の一部別掲記事参照）その後の交流会は岡田講師にも出席いただき、180名に及ぶ出席者のもとで、菅野理事の開会挨拶、東北経済産業局地域経済部の柏 芳郎課長、仙台市経済局の梅内 淳部長からのご来賓挨拶、青木顧問による乾杯の発声に引続いて懇談に入り、午後6時半過ぎ、長田副会長の御開きの辞を以ってすべての行事を無事終了しました。

平成26年度MISA新役員名簿

	氏 名	所属・役職・(担当委員会)		氏 名	所属・役職・(担当委員会)
会 長 (代表理事)	早 坂 栄 二	東北インフォメーション・システムズ(株) 取締役社長	理 事	新 小 原 正 孝	テクノ・マインド(株) 代表取締役社長
副会長	荒 井 秀 和	(株)サイエンティア 代表取締役社長		菅 野 直	ハイスリープロジェクト(株) 代表取締役 (事業共創)
	新 稲 葉 輝 雄	(株)東北システムズ・サポート 取締役会長 (企画広報)		小 林 隆	(株)ラネックス 代表取締役 会長
常務理事	穴 沢 芳 郎	(一社)宮城県情報サービス産業協会 事務局長		佐 藤 麻 美	(株)Minoriソリューションズ 執行役員 (経営)
理 事	秋 山 博 信	(株)仙台ソフトウェアセンター 代表取締役専務		増 子 良 一	イートス(株) 代表取締役 (経営)
	大 森 清 視	(株)ピッツ 取締役 (人財育成)		渡 辺 勉	東北インフォメーション・システムズ(株) 経営管理部 専門職 (福利厚生)
	新 奥 瀬 伸 一	東北NSソリューションズ(株) 代表取締役社長		監 事	阿 部 嘉 男
小野寺 満 明	(株)システムロード 取締役社長 (経営)	鈴 木 利 信			(株)アテネコンピュータシステム 代表取締役社長 (福利厚生)

(敬称略 各五十音順)

MISA 第3回通常総会 会長挨拶

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 会長 早坂 栄二



第3回総会開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。平素は当協会の活動に格別のご支援ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

また、本日は大変ご多用のところ御来賓の皆様をはじめ多くの会員の皆様にご出席いただき誠に有難うございます。

本日は一般社団法人へ移行して3回目の総会であり「平成25年度の事業実施結果及び収支決算結果」並びに「新中期事業計画（26年~28年）」、「平成26年度事業計画及び収支予算」についてご説明しご承認いただくのが主目的であります。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、回復局面に入ったとされている我が国の経済ですが、この流れの中で「第三の矢」である成長戦略が実行に移されれば、現時点で慎重な企業投資や雇用姿勢も積極化し、経済見通しが一段と上振れする可能性があると思っております。

しかし、欧州信用不安の再燃リスク、中国経済や米国財政問題等の先行きに対する不透明感を抱えている状況にもありますし、消費増税に対する消費の落ち込みも懸念されるところでございます。

東北においては、公共投資の大幅な増、設備投資の持ち直し、雇用改善の動きなどから、全体として東日本大震災からの緩やかな回復傾向がみられるものの、改善の動きは弱いようです。中小企業の割合が大きい東北は「アベノミクス」成長戦略波及効果に期間を要することから、しばらくは厳しい状況が続くものと予想されております。

このような状況から東北の企業ユーザも一部を除き慎重な対応を取らざるを得ず、IT投資の抑制が続くものと予想されるところでございます。そのような意味で我々地域業界も厳しい経営環境にありますが、今日の企業活動は、ITの利活用の度合いがやはり事業の成否を左右するといえますし、ITによるイノベーションが多くの場合何らかの重要なカギになることも変わりはありません。私共情報サービス産業は、その役割を担う重要な位置づけにあることを再認識し、いかに地域社会への貢献に関わっていくかが大切かと考えております。

これらに的確に対応していくためには、「個々の企業単位では対応できない諸課題に個別の企業の枠を超え結束して取り組んでいく」ことがますます重要になり、宮

城県情報サービス産業協会としての中長期的視点に立った新たな対応・強化が求められます。

このような状況を踏まえ、昨年度末に今後3年間の新たな「中期事業計画」を策定いたしました。後程議案として報告いたしますが、ビジョンとして目指す姿は「ICTビジネスの拡大によって、地域経済を盛り上げる」ことです。そして「会員企業が相互に刺激しあい、学びあい、協力し合う共同組織を目指したい」と思います。是非とも会員の皆様には、積極的に委員会に参加して頂きまして、全員参加型でさまざまな課題に取り組むことを通して、協会に加入するメリットを享受いただければと願っている次第であります。

平成26年度事業計画は、基本的にその第1年度として策定いたしました。皆様共々活力ある宮城県情報サービス産業界の発展とITの利活用促進による地域経済の活性化に少しでも貢献してまいりたいと考えております。そして将来あるIT産業を目指していくためには会員結束のもと、より効果的な事業運営に努め、経営基盤の強化を図っていくことが、重要であると考えます。

皆様方からの一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、この本総会終了後に昨年、経済産業大臣賞を受賞された廣瀬製紙株式会社代表取締役社長の岡田様から「モノづくり企業の再建への取り組み」というテーマで自社再建の実績事例等を交え講演をいただくこととしております。今、地域産業の経営力強化が求められている中、大変興味のあるお話ではないかと期待しているところでございます。岡田様には大変お忙しい中、誠にありがとうございます。どうかよろしく願い申し上げます。最後になりましたが、ご参集の皆様のますますのご繁栄をご祈念申し上げ開会にあたっての挨拶といたします。



MISA 第3回通常総会 来賓挨拶

宮城県震災復興・企画部次長 小林 裕 様



貴協会の皆様には日頃より本県の情報サービス産業の振興と地域IT化推進のご支援・ご協力に対し、この場をお借りし改めて御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から3年3か月が経過いたしました。ちなみに本日6月12日は宮城県沖地震が発生した日で36年目になる日でございます。県ではこれを防災の節目の日ということで、みやぎ県民防災の日と定めて、今日もいろいろ訓練等実施しているところでございます。それはさておき、宮城県では東日本大震災以降、宮城県震災復興計画に基づく復旧・復興に全力を挙げて取り組んできております。その計画に位置付けました3年間の復旧期が、平成25年度末に終期を終えまして、この4月から再生期に入っております。

県では被災者の皆様の一日でも早い生活の再建を最重要課題として取り組みを進めると同時にさらなる発展へと視線を上に向けまして、復旧にとどまらない抜本的な再構築、創造的な復興の実現に向け邁進してまいります。

IT分野に目を向けますと、アベノミクスによる景気回復などを反映いたしまして企業のIT投資力が高まっていると報じられているところもでございます。先ほど早坂会長さんから、なかなか厳しい状況にあるとお話もございましたが、ビッグデータの利活用とか、農業や医療関係あるいは社会インフラの管理面でのIT活用がかなり広がっているという感じもしております。

さらに、マイナンバー制度など行政による新システ

ムの構築といった事も始まっております。こうした明るい材料の一方で、先ほどのお話のようになかなか経済効果が十分に浸透してこない、波及してこないといった状況もありまして、依然として厳しい経営環境にあるということを感じるところでもございます。

このような状況の中、県といたしましても引き続き、販売導入支援、市場獲得支援、企業立地支援、人材育成、雇用の確保といった切り口でIT産業に対する支援を進めてまいりたいと考えております。

特に人材育成の施策には引き続き重点を置いてまいりますとともに、昨年度から開始いたしましたIT商品開発スタートアップ支援事業につきましては高いニーズが認められましたことから、今年度は予算を増額したところでございます。ぜひ皆様には活用いただいて地域産業が求める有用性の高いソフトウェア開発を一層支援してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

創造的な復興の実現、これにはIT産業の力が要といっても過言ではなく、皆様の事業活動が復興に果たす役割は非常に大きいものと期待しているところでございまして、県としても十分な連携を取らせていただきたいと思っておりますので、引き続きご尽力、ご協力をよろしくお願いたします。

貴協会のさらなる発展と本日ご出席の皆様のご健勝を祈念いたしまして挨拶いたします。



第3回通常総会記念講演 『モノづくり企業の再建への取り組み』 ～やれば・動けば解はある～

廣瀬製紙株式会社 代表取締役社長 **岡田 勝利 氏**



私が家内の実家の会社再建を引き継いで4年になります
が、その中で一番感じたのは意識改革です。

日本電産を興した永守さんは、うまくいかない会社に足りないのは「儲けよう」「一生懸命働こう」「いいモノをつくらう」「もっと大きな会社にしよう」とする意識が欠けているからだと言っていますがこれは本当なんですね。私も最初会社に入って驚いたのは、儲けようという気は感じられないし、一生懸命働こうとする気概も見えてこない、さらに役員もあまり働かないから3割カットを2回しましたが何も感じないし、辞めるかなと思っても辞めない、驚きでした。

それはいいとして、そういうことをやっても告げ口も出ない。そういう会社の風土だったと思います。

それからうまくいかなくなると、どうしても人の責任にしたがるんです。これは結構多いです。ひどいのは「世の中が悪いから」「安倍政権が悪い」とか、言ってもしょうがないことを口にする。自分でやろうとしないで言い訳に終始する。本当の責任は我にありでなく、自分のやり方が悪いということに気付こうとしない、必死さがありませんね。

今年のスローガンに「こだわりと必死さ」「第二の創業に向けて」を掲げ、愚痴はできるだけ言わせないようにしているんですが言いますね。なかなか浸透しませんし、成果を出せと言っても難しい。こういうところが会社経営の難しいところですが、とにかく意識改革断行なくして企業再生はあり得ないと思っていますところ。

あと、目標の達成へ向け具体的に動くことです、目標は夢ではなく実現するものであるという意識も大切です。「言は必ず信」、「行必ず果」です。信というのは動くことということなんです。言ったら動け、実行したら必ず成果を出すことです。人間は基本的にホラ吹きだと言われていますが、それは夢吹きであってほしい。夢に向かってどんどんホラを吹いてやってもいいんですが、要は結果です。結果が出ればホラ吹きもうそつきにはならないということで、失敗もそうなんです。やめたら失敗なので最後までやり通すことであり、大ボラは実現することが重要だと思います。

それから実現させるためには仲間を巻き込む秘策も大事です。私が工場建設で井戸を掘ろうとしたら住民が反対して掘せないので途中の私有地に掘ることになった。ところが工場まで300メートルくらいあって途中に県道がある。そこで県道に送水管を通すべく県に交渉に行ったら県道は県民のものでありお前のためにあるのではない、前例がないということでひどく怒っていたんですが最後は許

可してくれました。とにかく納得いくまで説明し相手を巻き込むことですね。反対する住民にも味方になっていただく思索をいろいろ考えるということです。

そして正当な値上げ交渉、無茶なクレームへの的確な反抗も必要に思います。原料、電気、燃料が上がればやはり値上げ交渉はやるべきですし、クレーム賠償も例えば検品体制の強化などお客様が納得いく対応が確立するのであれば、意外と了解してもらえるものです。とにかくお客様に卑屈になることなく、意見・主張はすべきということです。

また、自ら動き賛同者を増やすことも大切です。世間話からでもいいですがいろんな出会いの機会を多く得ることにより、開発や技術課題、市場開拓等の支援をしていただく人材があつまってきます。私が一番大きかったのは、地元に一社しかないリクルート会社と知り合い「いい人がいたら全部うちにまわせ」といったらちゃんと素直にやってくれます。そういうことで今、優秀な人材が入ってくれています。

最後に中小企業の事業戦略の「心得」についてお話しさせていただきます。

要約を以下に記します。

1. 中小企業間(会員企業間)の連携促進を図る

<実施上の心得>

◎自社の事業展開の明確化



- 不足能力に対する連携内容・分担の明確化
- 連携事業においては対等の立場(会社規模とは無関係)
- 対等の立場となる技術及び見識を持つ
- 相手企業に敬意の念を持つ
- 成功までやり抜く(信頼感)
- 最後はWin-Win関係(次の連携に結び付ける)

2. 特徴ある企業になる

◎ニッチな分野でデファクトスタンダードの確立

- まずは市場初の提案(価値づくり)
- スピード
- 価値づくりの実績から市場づくり

◎大手企業が対応しない小規模市場へ積極的に取組

3. 時代の変化に対応できる企業になる

◎同じ姿勢では、衰退は当たり前

◎第2、第3の創業へ

MISA会員企業の総合力に関する調査報告

経営委員会では、会員企業の企業力、経営姿勢などについて定点観測的に調査を実施しており、平成25年度 調査結果について取りまとめましたので報告します。(一部抜粋)

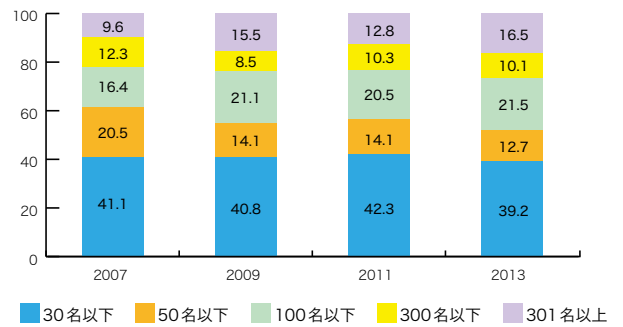
調査対象：宮城県情報サービス産業協会会員企業(149社)

回収事業所：79社(回収率：53.0%)

1. 従業員数

50名以下が漸減し、300名以下が微増していることから、1社当たりの従業員は拡大していると思われる。

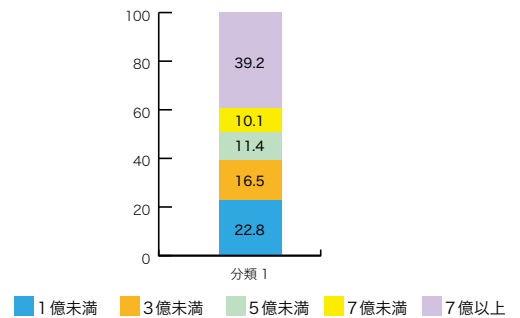
従業員数推移



2. 売上高

「5億未満」が50%がとなっており、従業員数「50名以下」の比率51.9%とほぼ等しい値となっている。

売上分布

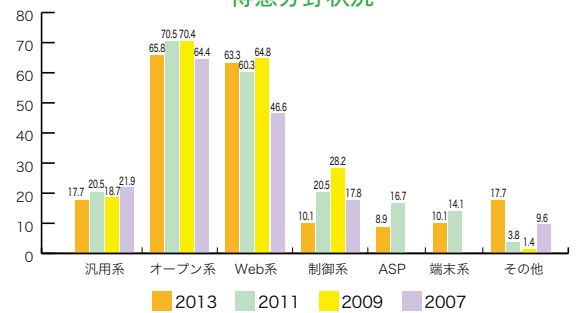


3. 得意分野

「汎用系」は徐々に減っている。「オープン系」「Web系」は2009年度をピークにあまり変化がなく、得意分野への転換がほぼ終わったと思われる。「制御系(組込系含む)」「ASP」「端末系」共、減る傾向にあるが企業設備投資の減少が影響が考えられる。

また、「その他」急増はITサービス形態の多様化してきているものと思われる。

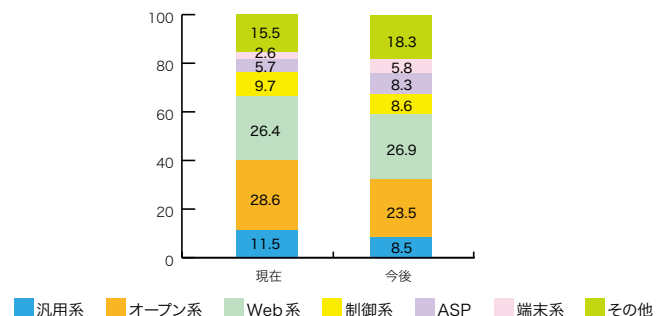
得意分野状況



4. 受注分野

「汎用系」、「オープン系」は漸減、「web系」、「制御系(組込系を含む)」は変わらず、「端末系」「その他」が多くなる傾向にあり受注分野の多様化がうかがわれる。

受注分野状況



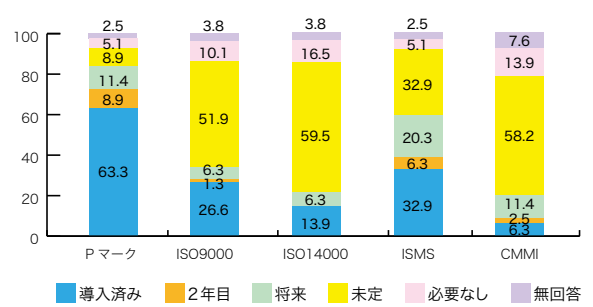
5. 資格取得状況

資格の順位は、Pマーク63.3%、ISMS32.9%、ISO9000シリーズ26.6%、ISO14000シリーズ13.9%、CMMI6.3%となっている。

前回調査(2011年)と比較すると、Pマークのみが8.3ポイント伸びている。

また、今後取り組みたいとしている順位は、ISMS26.6%、Pマーク20.3%、CMMI3.9%、ISO9000シリーズ7.6%、ISO14000シリーズ6.3%となっている。

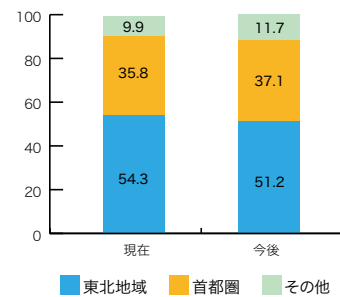
資格取得状況



6. 地域別売上構成

「東北地域」での売り上げが減少し、「首都圏」「その他」が増える傾向にあり、震災の影響をから「東北地域」への期待感は薄れていると考えられる。

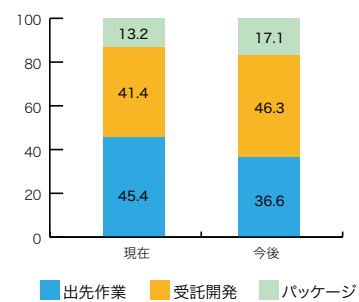
売上構成



7. 作業形態

「出先での作業」を減らし「受託開発」「パッケージ開発」を増やし自社内での作業を強化する傾向が伺える。

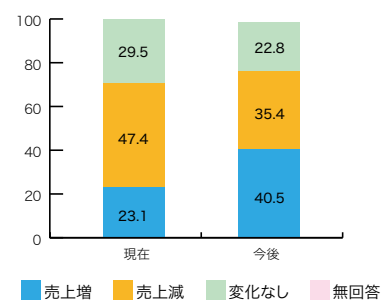
作業形態の状況



8. 東日本大震災の影響(売上)

震災年は「売上減」の比率が高かったが、今回は「売上増」の比率が高くなっており徐々に震災前の状況に戻っていると思われる。

震災後の売上動向



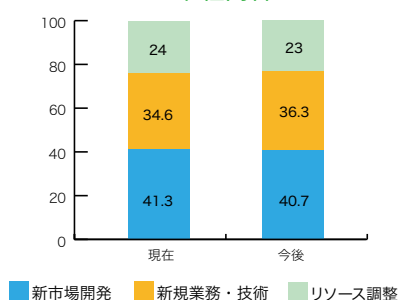
9. 震災後の新たな取組

6割以上が「新たな取組をしている」としており、長期的な対応と考える。

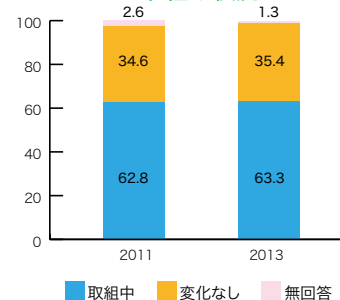
10. 取組内容

あまり変化はなく、長期的な対応と考える。

取組内容



取組み状況



技術研究組合 制御システムセキュリティセンター (CSSC)の研究開発の概要

2013年5月みやぎ復興パーク内に制御システムセキュリティセンター東北多賀城本部が開設され、研究開発を推進中ですがその概要について紹介します。

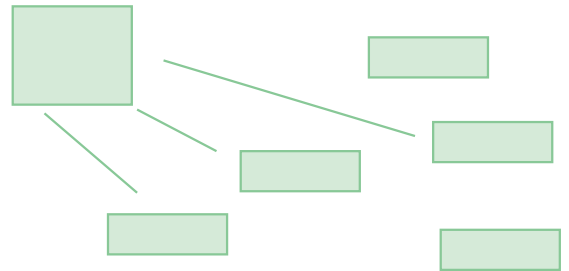
なお、現在、本センターでは地域IT企業の参画も視野に地域枠限定の特別賛助会員を募集中です。

人材育成プログラムの開発

- 制御システムにインシデントが発生した場合の対策に関する普及啓発システムについての技術
- ・制御システムにおけるマルウェア感染の影響および対策のための人材育成プログラム構築技術
- ・制御システムセキュリティ人材育成のための模擬システム構築技術

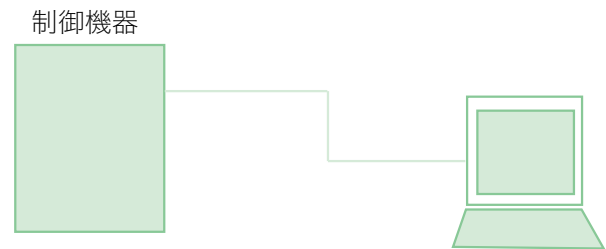
高セキュア化技術の開発

- マルウェアの侵入防止や感染後の不正な動作の防止を図ることによるマルウェア対策技術、通信路での暗号化を図るための暗号化技術、構造自体をセキュアにする技術等
- ・高セキュアデバイス保護技術
- ・制御システム向け軽量暗号認証技術
- ・制御システムへのマルウェア侵入対策技術
- ・仮想環境における高セキュア制御システム構築技術



評価・認証手法の開発

- 制御機器が実環境と同等の環境で稼働することを保証し、制御機器の持続性・脆弱性を検証し、それらの結果を視覚化する技術
- ・制御機器間の接続性検証技術
- ・実環境エミュレーションソフトウェア技術
- ・制御システムにおける脆弱性検証技術
- ・セキュリティ検証結果の視覚化技術



インシデント分析技術の開発

- インシデントを検知するために、ネットワーク上の振る舞いや制御機器の異常検知技術
- ・仮想環境課におけるサーバや制御機器の異常検知技術
- ・制御ネットワーク上の異常振る舞い検知技術



委員会報告

グローバル時代の地域ICT企業の明日を考えるセミナーII

人材育成
委員会

「グローバル時代の地域ICT企業の明日を考えるセミナー」を7月24日（木）、NAViSにて開催しました。

- 講演1では、日本アイ・ビー・エム株式会社の後藤浩幸氏に「グローバルへ展開するためには」として、後藤氏の経歴をはじめ、IBMのビジネスモデル変革と今後の方向性についてご講演頂きました。IBMでは、ビジネスモデルのトランスフォーメーションを行い、ハードウェアビジネスから今ではサービス主体となり、サービスの売り上げが70%超となっているなどのお話をいただきました。
- 講演2では、町田コンサルティング代表の町田信一氏に「グローバルビジネスで頼れる人材について」として、町田氏が富士通株式会社在籍時に担当されていた海外ビジネスについて実体験を基にお話を頂きました。日本と欧米・中国をはじめとするアジア圏・アラブ圏におけるビジネス習慣の違いや、言語の相違に潜むリスク、価値観・行動様式の相違など、非常に興味のあるお話を頂き、改めて世界の文化の違いなどを感じさせられました。
- 講演3では、株式会社ステージラインの半澤幸夫氏に「国際感覚やコミュニケーションには英会話力がいかに必要か」というテーマに講演をしていただきました。半澤氏は大学生の時にアメリカへ交換留学の経験があり、その実体験をもとに、日本とアメリカのコミュニケーションの違いをはじめ、会話を通じた英語でのコミュニケーション力と国際感覚の必要性をお話いただきました。半澤氏の講演のパワーに参加者全員が引き込まれる感じでした。
- 最後に講師の方3名によるパネルディスカッションを行いました。今回は初めてのパネルディスカッションというのに加えて、Twitterによる質問受付など、主催者側も初めての試みだけでしたが、予定時間をオーバーするほどの活気のあるパネルディスカッションとなりました。
講演の時には聞けなかった、現地（海外）での裏話など、実際に生活してみないとわからないような話も聞く事が出来、非常に有意義な時間を過ごすことができました。



セバレート型 UHF帯RFIDハンディリーダーダライタ

優れた携帯性と 作業の効率性を兼ね備えた
スマートRFIDリーダーダライタ

医療現場に 店頭での利用に 文書管理に

Bluetooth®搭載
スマホやタブレットへ
接続して使用できますUHF帯RFIDハンディリーダーダライタ
DOTR-900Jシリーズ

高出力 特定小電力



ホワイト

ブラック


株式会社 東北システムズ・サポート
<http://www.tss21.co.jp/product/mobile/rfid/>
〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-3-14 TSSビル
TEL.022-259-9804(代) FAX.022-259-8222

人財確保推進委員会活動報告

人財確保
推進委員会

【MISA IT業界体験インターンシップ事業】

宮城県下の大学生、高専生、専門学校生（4年課程）を対象として、従来の企業体験では得られない実効性のある実学訓練を実施し、地域の将来を担う人財育成を目的に、会員企業講師及び東北電子専門学校様からのご支援の下「IT業界体験インターンシップ事業」を実施致しました。今年度は東北大学、宮城大学、岩手県立大、東北学院大、東北工業大、東北福祉大、東北文化学園大、東北電子専門学校（4年課程）の各大学から29名の学生の参加を得て、8月18日（月）～8月24日（日）、8月30日（土）の日程で実施致しました。また11月12日（水）には成果発表会を予定しております。8月26日（火）には、会員企業6社をお招きし、業界会社研究のご講義を頂戴致しました。学生にとっては県内のIT業界を知る格好の機会となり、充実した計8日間のインターンシップが実施されたと思っております。従来の各企業単位のインターンシップでは、セキュリティーの制約等の業界事情もあり、SE業務の全体のプロセスはなかなか体験できませんでした。本インターンシップでは、この課題を克服し、学生の皆さんに、設計・開発の模擬体験を通じ、IT業界における実務の流れをトータル的に把握して頂けるように企画致しました。また、MISA会員企業の現役SEによる指導の下で、学生ではなかなか体験できないIT業界の任務やその業務の全体イメージを掴めたと思います。



【出前授業】

宮城県下の中高校生を対象として早期工学人財育成を目的に、会員企業講師派遣による工学系、情報系の出前授業を実施しております。7月までに3校（宮城県小牛田農林高校、宮城県村田高校、宮城県松島高校）に対し延べ4回の出前授業を実施しております。

小牛田農林高校では、（株）SRA東北の大森マネージャー様に講師をお引受頂き、『システムエンジニアの仕事』というテーマで、ITが社会生活における基盤となっている事、その中でシステムエンジニアがどのような仕事でどのような役割を担っているか、ご自身のキャリアをベースに説明されました。特にシステム開発に関わることによる喜びややりがいなど、仕事を通じて社会と関わることの意義を伝えて頂きました。

松島高校では、（株）PRO&BSCの樋口部長様に講師をお引受頂き、『ソフトウェア技術者と数学』というテーマで、社会やソフトウェア開発において、数学がどのように活用されているか事例を交えながら解説し普段の授業の大切さを気付いて貰いました。特に学校側から数学の題材を多く扱うよう要望を頂いていたため、一次関数、三平方の定理、素数を題材にして、ソフトウェア技術者という立場から生活との関わりを紹介して頂きました。生徒からは「あまり具体的に分からなかったシステムエンジニアという職業がよく分かった」、「とても難しそうに感じたが、一次関数などを使うということで数学がこの仕事を行う上で大切なことだと思った」等のコメントがありました。



委員会報告

経営
委員会

第26回MISA親睦ゴルフ大会

■開催日：平成26年4月19日（土） ■場 所：仙台カントリー倶楽部 名取コース

春と秋の年に2回行われるMISA親睦ゴルフ大会も今回26回を迎え、16組53名が参加し日頃の腕前を競い合い、和気あいあいと会員の親睦を深めるゴルフ大会となりました。

【成績】（敬称略）

グロス ハンデ ネット

優勝：工藤 兼一 (88) (18.0) (70.0) (株)メディア・サポート
 準優勝：小野寺満明 (78) (6.0) (72.0) (株)システムロード
 第3位：江戸 利幸 (93) (20.4) (72.6) (株)エヌ・シーエス
 // 赤羽 貝永 (75) (2.4) (72.6) 東北ディーシーエス(株)
 第5位：佐久間敬一 (84) (10.8) (73.2) (株)コンピュータシステム研究所



東北電力企業グループ

東北地域の発展に向け、IT面から最大限に貢献し、
 その情報システムをしっかりと支え、キッチリ守ります。
 これまでも、そしてこれからも。

TOINX



TOINX 東北インフォメーション・システムズ株式会社

トインクス

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央二丁目9-10 セントレ東北

Tel.022-799-5555

Fax.022-799-5561

<http://www.toinx.co.jp/>

第6回MISA会長杯フットサル夏大会

福利厚生
委員会

第6回MISA会長杯フットサル夏大会を6月29日（日）、リベラ鶴巻さんで開催しました。

大会はオープンクラスとビギナークラスで応募させて頂き、16チーム総勢約160名の参加となりました。参加された方のご家族や大会事務局のメンバーを加えますと200名近い方々にお集まり頂いたのではないのでしょうか。例年は夏にビギナークラスの大会、秋にオープンクラスの大会と分けていたのですが、リベラ鶴巻さんはフットサルコートが4面ある、ということで同時開催としました。

今回は初めての会場ということも有り、大会の進行に影響が出るのではないかと心配したのですが、参加者がいつもの顔ぶれであることと、事前にキャプテン会議を開催したことで、特に遅れもなくスムーズに進みました。ビギナークラスにもオープンクラスにも女性のかたが参加されていたので、張り詰めた空気の中にも笑顔も有りで、見ている方も楽しめました。女性の参加が多くなったのは、女性がゴールすると2点入るという特別ルールが有るからかもしれません。いやいや男性が単にいいところを見せたいだけかもしれませんね(笑)。実際は今回もサイエンティアの女性の方がゴールネットを揺らしていました。女性に対する反則行為は、即PKになる、という特別ルールもありますので、これからも気軽に参加し、大会盛り上げにご協力ください。

秋にも同じ場所で両クラスのフットサル大会を予定しています。皆様方の積極的なご参加方よろしくお願いたします。



第6回MISA会長杯フットサル夏大会(2014/6/29)

◆オープンクラス

- 優勝 東北インフォメーション・システムズ株式会社
- 準優勝 株式会社SRA東北
- 3位 株式会社アート・システム
- コンソレーション優勝 通研電気工業株式会社

◆ビギナークラス

- 優勝 TIS東北株式会社
- 準優勝 株式会社サイエンティア
- 3位 テクノ・マインド株式会社
- コンソレーション優勝 NECソリューションイノベータ株式会社



委員会報告

MISAカレイ釣り大会in大型漁礁

福利厚生
委員会

6月14日（土）恒例のカレイ釣り大会in大型漁礁を開催しました（えびす屋さんの真新しい大型釣り船：下段写真）。今回の参加者20名は、塩釜港より乗船し、仙台港の沖合（船で1時間程度）にある漁場に向かいました。

当日の天気は晴れ、初夏の清々しい気候のもとでの釣行となりました。昨年は一人平均30枚程度で良型も多く、今回も皆さん大いに期待されていたようでした。私（田代）もその一人で、大量に持ち帰っても捌いたり、後が大変になるので小型は全てリリースすることを密かに決めていました。

さて、魚場に着くと、船頭さんの笛の合図で一斉に釣り糸をおろしました。最初はポツポツと釣れていたのですが、思うように釣果が伸びません。魚が少ないのか、魚の活性が低いのか、定かではありませんが、釣れません。活性が高いのは釣り師だけでした。釣り場を船で大きく移動しても同じで、そのうち船酔いや体調不良（前日遅くまで酒宴）は、船内で一時お休みモード。状況が変わったのが、釣り終了の30分くらい前だったのでしょうか。たぶん時合が良かったのだと思います。私は既に諦めて釣り道具を片付けていたので、お昼を食べながら、ただ眺めているだけでした。（涙）

大会結果は以下の通りです。竿頭の小室さんが31枚なので、そんなに状況は悪くなかったのかもしれませんが、小室さんは昨年も数釣りされていましたので、釣り座のよし悪しでもないようです。

私は小型をリリースすることもなく8枚、釣果の差は腕の差なんですね（当たり前（笑））。



大会賞受賞者の方々

大漁賞（優勝31枚）（カレイ竿）：小室 清貴 様（株）システムロード

大漁賞（準優勝19枚）（リール）：一ノ瀬潤一 様 東北インフォメーション・システムズ（株）

大漁賞（ブービー6枚）（リール）：佐藤 剛司 様（株）アテネコンピュータシステム

大物賞（優勝43cm）（カレイ竿）：斎藤 慶二 様（株）SRA東北

大物賞（準優勝42cm）（クーラーバック）：横浜貞子 様

（NECソリューションイノベータ（株）横浜久様の奥様）

大物賞（3位37.5cm）（リール）：若林 浩行 様

賞品はMISAからご提供いただきました。

大物の3位賞は「えびす屋」さんからの協賛品です。



製品情報 ソフトウェア

Product

400社以上のユーザー様のご意見を元に
生まれ変わりました。

生産管理支援型 在庫管理システム

みえぞう miezou

<http://www.bits.co.jp/product/miezou/index.html>

株式会社 **ビット**

製品構成画面

- DX7000 - V1.1: 製品DXシリーズ 型番7000 [バージョン1.1] (1,000)
- ITM7001 -: END ITEM 7001 (2,000)
- ITM7002 -: END ITEM 7002 (4,000)
- M SUB5011 - V1.0: 中間部品 SUB5011 (共通部品) [バージョン1.0] (2,000)
- ITM5011 -: 部品E/ITM5011 (6,000)
- ITM5012 -: 部品E/ITM5012 (6,000)
- ITM5005 -: 部品E/ITM5005 (物別)
- M SUB5100 - V1.0: 中間部品 SUB5100
- ITM5001 -: 部品E/ITM5001 (2,000)
- ITM5002 -: 部品E/ITM5002 (4,000)
- M SUB5555 - V1.1: 中間部品 SUB5555
- ITM5003 -: 部品E/ITM5003 (1,000)
- ITM5004 -: 部品E/ITM5004 (3,000)

認定！

＜経済産業省＞
生産性向上
設備投資促進税制
対象設備
(ソフトウェア)



テクノロジーを未来のチカラに

2014

ICT CONFERENCE

2014.10.20 MON 14:20-16:00 開場 14:00 開演 14:20

せんだいメディアテーク1F 参加費無料 [定員200名 事前登録制] ※オンライン事前登録が必要となります。

- 主催：一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会(MISA) ●共催：東北情報通信懇談会
- 後援及び協賛：宮城県／仙台市／宮城県高度情報化推進協議会／(公財)みやぎ産業振興機構／仙台商工会議所／(一社)組み込みシステム技術協会／(一社)情報サービス産業協会／東北地域情報サービス産業懇談会／(一社)みやぎ工業会／(株)仙台ソフトウェアセンター／東北IT産業推進機構／NPO法人 JASIPA／ITで日本を元気に!



未曾有の災害をもたらした東日本大震災の発生から3年半余、宮城県における地域社会の高度情報化の促進を目的に活動する私たちMISAは、大災害の経験を踏まえた上で、これからのICTのあるべき姿や課題について検討を続けてきました。今回は、「iモード」や「おサイフケータイ」など数多くのサービスを立ち上げ、現在はいくつもの企業取締役や慶應義塾大学特別招聘教授を務める夏野剛氏を講師に迎え、「ICTの可能性を最大限に活用した地域づくり」について皆さまとともに考えてみたいと思います。多くのご参加をお待ち申し上げております。

LECTURER & PANELLIST 講師 & パネリスト



慶應義塾大学 政策メディア研究科
特別招聘教授

なつ たけし
夏野 剛

講演テーマ「ICTを地域のチカラに。」

1988年早稲田大学卒、東京ガス入社。95年ペンシルバニア大学経営大学院(ウォートン)卒。ベンチャー企業副社長を経て、97年NTTドコモへ入社。99年に「iモード」、その後「おサイフケータイ」などの多くのサービスを立ち上げた。2005年執行役員、08年にドコモを退社。現在は慶應義塾大学政策メディア研究科特別教授のほか、ドワンゴ、セガサミー、びあ、トランスコスモス、GREEなどの取締役を兼任。World Wide web Consortium(通称:W3C)Advisory Boardメンバー。NHKの「ホワイトボックス」などTV出演多数。特別招聘教授を務める慶応大学政策メディア研究科では「ネットワーク産業論」をテーマに講義する。2001年ビジネスウィーク誌にて世界のeビジネスリーダー25人の一人に選ばれる。

PANELLIST パネリスト

株式会社サイエンティア
代表取締役社長あらい ひでかず
荒井 秀和

1961年 宮城県出身。84年 東北大学工学部機械工学第二学科卒業。同年トキコに入社。産業用ロボットの開発に従事。87年 仙台コンピュータサイエンス(株)(現(株)サイエンティア)入社。人事・給与・人材マネジメントに関するソリューション事業に従事。2000年代表取締役社長に就任。一般社団法人宮城県情報サービス産業協会副会長。宮城県行政経営推進委員会副委員長。

一般社団法人ワカック
代表理事わたなべ かずま
渡辺 一馬

1997年宮城大学へ入学。在学中に学生ベンチャーサークル・デュナミスへ参画。2001年、卒業と同時にデュナミスを会社法人化、代表に就任。震災後、これまで培った人材育成の手法をより洗練させ、若者たちの「問題解決」への挑戦を支援。「若者が成長できる東北」を目指し、一般社団法人ワカックを設立し活動中。NPO法人ファイブブリッジ監事、NPO法人せんがいみやぎNPOセンター理事、等。

COORDINATOR コーディネーター

トライポッドワークス株式会社
代表取締役社長ささき けんいち
佐々木 賢一

1967年 仙台市出身。90年 電気通信大学応用電子工学科卒業。90年 株式会社日本総合研究所に入社。大型コンピュータの技術開発に従事。94年 日本オラル株式会社入社。技術者を経て96年から電力など公共公益分野の営業マネージャ。2000年 東北支社開設と同時に同支社長就任。05年 日本オラルを退社しトライポッドワークス株式会社を創業。

SCHEDULE スケジュール
セミナー・パネルディスカッション

14:00	開場・受付開始
14:20	主催者挨拶
14:30	夏野剛セミナー「ICTを地域のチカラに」
15:20	講演終了
15:25	パネルディスカッション
16:00	閉会

お申込み方法

締切日 2014.10.15(水)

セミナー・パネルディスカッションへの参加は事前登録が必要です。下記アドレス(MISAのサイト)よりICT CONFERENCE 2014のページにいき、入カフォームに必要事項のご記入をお願いいたします。

<http://www.misa.or.jp/>

ACCESS アクセス

せんだいメディアテーク1F

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 <http://www.smt.jp/>

お問い合わせ

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 (カンファレンス実行委員会)
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-6-10 仙台北辰ビル5F
TEL:022-217-3023 FAX:022-217-3055 E-mail:misa@misa.or.jp

TEC
Human & Technology

株式会社東北電子計算センター

豊富なソリューションと高度な技術でお客様の事業運営をしっかりとサポート
<http://www.tecgrp.co.jp/>

〒981-1217宮城県名取市美田園二丁目1番5号 TEL.022-382-6601 FAX.022-382-6607

新入会員紹介 (平成26年6月1日以降の入会)

正会員-入会 賛助会員-入会

会員数 (正会員・・・154社 賛助会員・・・35社)

入会日	会員名 (代表者名)	住 所 TEL・FAX
6月1日	(株)EMD 東北支社 (グループリーダー 千葉 良樹)	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-11-9 アルファオフィスビル401 TEL 022-395-8651 FAX 022-395-8613
6月1日	(株)アルゴニーズエンジニアリング (仙台オフィス長 関 証明)	〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン19F TEL 022-797-8048 FAX 022-797-0855
6月1日	アイエイ・コーポレーション(株)仙台支店 (代表取締役社長 西野 信夫)	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-18 ステーションプラザビル607 TEL 022-302-4755 FAX 022-302-4756
6月4日	(株)ケーヒンエレクトロニクステクノロジー (代表取締役社長 津谷 修)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-3-5 TEL 022-796-4452 FAX 022-796-4453
8月1日	ハイテクシステム(株)仙台支店 (拠点責任者 課長 上條 勝)	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-4-5 NORTHPIAビル TEL 022-297-2611 FAX 022-297-1814
10月1日	(株)Ruby開発 (代表取締役 芦田 秀之)	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン19F TEL 022-208-9467 FAX 022-208-9301
10月1日	デジタル・インフォメーション・テクノロジー(株) (センター長 進藤 稔)	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2 エムズ北仙台4F TEL 022-341-6721 FAX 022-718-7639
8月15日	KCCSキャリアテック(株)東北営業所 (所長 福島 諭)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-1-31 山口ビル3F TEL 022-302-5525 FAX 022-302-5526
9月10日	(株)アイテック (代表取締役社長 土元 克則)	〒108-0074 東京都港区高輪2-18-10 高輪泉岳寺駅前ビル4F TEL 03-6824-9010 FAX 03-5795-0231

(敬称略)

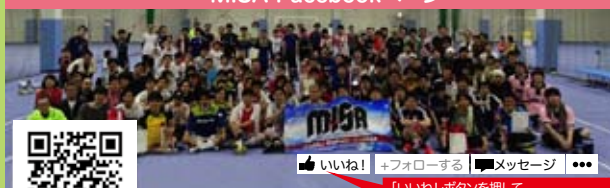
MISAでは、ホームページ・Facebookページより情報発信を行っています。是非ご覧ください！

MISA ホームページ



ホームページURL <http://misa.or.jp/>

MISA Facebookページ



FacebookページURL <https://www.facebook.com/miyagi.misa>

編

集

後

記

年初にMISA中期事業計画が策定され、第一期がスタートし数ヶ月が経過しました。中期のVisionとしましては、『ICTの進化を宮城の力に』ICTビジネスの拡大によって地域経済を盛り上げる、です。私が所属する情報発信部会も今期新たに発足し、MISAの存在感・好感度アップ及び発信力アップ(情報誌、ホームページ、会員企業データベースの活用等)がMissionとなりました。まずは多くの宮城の方々にMISAという存在を知って頂くための新たな活動を始め、それに対してPDCAをまわし、ひいてはMISA会員企業のスムーズな営業活動につながればよい

と思っています。最終的にはMISA全体の活動が「震災の復興も含めた地域経済の活性化に繋がる」です。情報発信部会の初年度の活動指針は、1年後「MISAは変わった」と関係者から言われるようになる！です。関係各位のご協力方よろしく願いいたします。

余談としまして、私が情報発信部会の部会長をお引き受けしたのは、中村文昭氏の『4つの鉄板ルール』の一つ、頼まれごととは試されごと！が常々心の隅にあったからでしょうか。(田代)